

革新懇の三つの共同目標

- ①経済を国民本位に転換し、暮らしが豊かになる日本をめざします。
- ②憲法を生かし、自由と人権、民主主義が発展する日本をめざします。
- ③日米安保条約をなくし、非同盟・中立の平和な日本をめざします。

鳥取県革新懇ニュース

No.53
2019年12月
2020年1月
合併号

〒680-0811 鳥取県鳥取市西品治806(鳥取県労連気付)
TEL0857-21-3171 FAX0857-21-3172

あなたは人間か？ 私は人間か？

まつもと かおる
作家 松本 薫さん



今年(2019年)9月、ミステリー小説『日南X』を出版された米子市在住の松本薫さんに、執筆された思いや昨今の政治状況についてお聞きしました。

かれこれ三十年くらい小説を書き続けています。本が出せるようになったのはこの十年ほどで、今年の9月に『日南X』というミステリー小説を出版しました。(もう「去年」になっっているかもしれませんが)

ことが主軸になるわけですが、私はそこに、歴史や人間が抱えるものを織り込みたいと思いました。これは、社会派推理小説の大御所・松本清張の手法であり、清張氏へのオマージュ作品といえるかもしれません。ちなみに、松本清張の父親は日南町の出身です。

「あなたは人間ではない」というセリフが出てきます。これは、石原吉郎著『望郷と海』からの引用で、シベリアに抑留された石原の友人(石原自身も八年の抑留体験者)が、自分の功績しか頭にない取り調べ官から、仲間の動静を密告するよう迫られた際に返した言葉だと書かれています。

た。安倍政権を守るために、嘘をいったり記憶喪失をよそおう官僚も多く、自己保身や出世のためなら、行政や司法の信頼さえかなぐり捨てた姿に呆然としました。「あなたは人間か!」との思いが、少なからず作品に反映しているかもしれません。

それはともかく、「地方創生」という言葉がまことしやかにいわれるずつと前から、田舎は「町おこし」や「地域おこし」に取り組んできました。それでも、地方は人口減少が止まりません。都市部、とくに東京への人口流入は、中央集権国家となつた明治以来続くものですが、戦後の高度経済成長期にはいつそう加速し、「どこにいても仕事ができる時代になつた」といわれながら、今も続いています。

「私は人間か」と問うこともありますが、人間であるうとするためには、改めたい考えをいられませんか。

まつもと かおるさんのプロフィール
米子市出身。中学教諭や高校講師を経験。2000年、「ブロックはうす」で早稲田文学新人賞。『梨の花は春の雪』、『TATARA』などで鳥取県出版文化賞も受賞。2006年よりNHK文化センター米子教室で「小説・エッセイ入門」を開講中。
【主な作品】『梨の花は春の雪』、『天の蜩〜十七夜物語』、『謀る理兵衛』、『TATARA』、『ばんどう』

私もついそんな気持ちになるのですが、過去の人々が築き上げてきたこの国の土台が腐りつつある現在、仕方がないです。すまされないと、思うのです。

税金を交付していくことが必要なのだろうと思えます。地方の自主性を大事にするということですが、



革新懇全国交流会に参加して

米子革新懇 石田一馬

初日での各分野からの発言はいずれも印象深いものでしたが、特に私が心を打たれたのは、憲法学者の小林節さんの発言です。その一部を紹介します。

「野党は一つになるしかありません。しかし旧民進系は未だに共産が邪魔だという様な態度をとる。安倍政権を変える為にはやるべき事がある。共産は今まで我慢してきたが、政権入りを目指そう。自民は改憲に向かっている。発議され国民投票となつた際、改憲賛成が51%になる状況になれば確実に仕掛けてくる。事態は進んでいる」

もし万が一改憲発議がなされた場合でも、最終的に決めるのは国民です。あらゆる事態を想定し、「安倍改憲に反対の人は多いから大丈夫と樂觀的にならず、改憲に反対という声を今以上に広げる事が大切です」

その為にはあらゆる立場の違いを越え、将来的には改憲に賛成という一部の野党議員まで巻き込んで「今は安倍個人の悲願を達成させる事なかれ」という運動の波を起こす事が必要だと思ひました。

初日の後半の部は、各地域の草の根の活動報告がなされました。中でも印象的だった報

告は以下の二県です。

・高知県 共産系野党統一候補の松本けんじさんの選挙結果は共産系でも勝てる事の証明になった。合区選挙で大変苦労したが労組と各野党がしっかりと団結出来た。来たる知事選で勝利を。

・愛知県 あいちトリエンナーレを再開させる事が出来たのは、若い世代の運動も大きい。そして国際世論、大村知事の憲法に基づく判断も後押しした。

私は愛知県の犬村知事に対して、以前まではいい印象を持っていませんでしたが、ヘイトや憲法無視がまかり通っている社会において、知事の今の姿勢は極めて真つ当であり、このままブレずに頑張つて頂きたいと思つて

います。2日目は複数ある分科会のうち青年交流会に参加。基調報告を行った石川康宏・神戸女学院大学教授の発言内容の一部を紹介したいと思います。

「意義、展望が見えれば人は選挙に行く。野党の存在を知らない若者も多数おり、語り方に個性を持って希望を語ろう。政権批判では魅力を感じられない。今、学校では政治や社会の事を機械的に教えるだけで、自発的に生徒が考えられるような授業が無い。しか

し、多くの学生は政治や社会の問題について知識は欲しいと思つて

る。18歳選挙権の教育で何が必要かと学生に問うと、沢山答えが返つてきた」

「国別の幸福度ランキングは3回連続で第1位がデンマークで、日本は58位。税金は高くても社会保障も学費も教育費も心配がいら

ず、有休も充実してる。年寄りより若い人に賢くなつてもらいたい国を

展させていくという考えに加え、国民の命と健康を守る事は国の責務だと理解している。日本でも市民連合と各野党とで交わした13の

共通政策で希望ある社会を作ろう。分らない、興味が無いという人も関わりを持つ事も大切」

交流会は、その後にシンポジウムと質疑応答がありましたが、その中身は色々考えさせられるものになりました。中でも「青年の現実を皆さんは見えていますか。若い世代にはモノを言わせない風潮が日本には蔓延しています。それは組織でも同じではないですか」という参加者からの声に対して、パネラーから「革新の中の保守的思想はあると感じる。団塊の世代がしてきた運動を引き継いでその轍を踏んでいっても、運動が長く保障は無い」という意見が出されたやり取りには、衝撃にも似た感覚を受けたのを覚えています。

全体会（1日目）で特別発言する共産党志位委員長



県革新懇総会を開催

鳥取県革新懇は9月21日、まなびタウン東伯において、2019年度総会を開催しました。

今年度の総会は二部構成とし、第1部は、住民目線・山陰ネットワーク代表の福島浩彦氏、米子市在住の作家松本薫氏をお招きし、長谷川代表世話人の進行で、「市民と野党の共同の広がり」と参議院選挙」をテーマにフォーラムを行いました。椋田鳥取市議会議員にもメッセージ参加をいただき、フォーラムの後、活発な意見交換も行われました。

第2部の革新懇総会は、市民と野党の共闘、憲法問題、沖縄の基地問題、原発・再生エネルギー、革新懇づくりと全国革新懇ニュースの拡大、県革新懇ニュースの発行体制の強化などについて報告・提案され、提案された方針に沿ってそれらの諸課題に取り組むことを参加者全員で確認しました。

また、今総会に立憲民主党鳥取県連代表興治英夫さまからメッセージを寄せていただきました。



フォーラムで（左から）長谷川、松本、福島の各氏

安心して住み続けられる 地域づくりをめざし 自治体キャラバン

鳥取県社会保障推進協議会と、「軍事費を削つて、くらしと福祉・教育の充実を」大運動実行委員会は、10月より県内全ての自治体に対して、医療、介護、税、生活保護、子育て、商工政策などについて要請し、懇談を行っています。

国保関連では、鳥取県民医連の調査で判明した「手遅れ死亡事例」をもとに、その対応について意見交換。事例の当事者が在住した自治体との懇談では、担当課長と鳥取生協病院のケースワーカーとで情報共有の場を設定する事が確認されたり、国保の窓口負担減免制度（国保法44条）を今

後の広報に掲載すると、首長発言を得た自治体など、幾つかの前進面がありました。また、公立・公的病院の統廃合リストが突如発表されたことに対して当該自治体からは、「やり方も調査方法も問題で、白紙撤回を求めたい。みなさんも協力を」「人口や医療ニーズが変化すれば、病床のあり方を考えるべき」とは思うが、地方のことは当事者が議論すべきで、こんなやり方はない。国は県内の地域医療構想に投じて、撤回していかない。今後はもっと締め付けてくるだろう」などの発言がありました。無料定額診療利用者

への薬代助成制度創設の要請には、「県外では実施している自治体もあり、県内の他自治体の動向も勘案して検討したい」の回答もありました。米子市とのやりとりでは、米子医療生協が無料定額診療事業を始めるにあたり、広報を行う約束が得られました。キャラバン行動はまだまだ残っていますが、全ての市町村が終わり次第、年明けに鳥取県に対する要請・懇談を行う予定にしています。



要請内容についてやり取りする参加者=10月28日、若桜町手前側は町長と担当者